



新たな外来種の侵入・拡散防止に係る対策

令和7年度 第1回 小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会
令和7年8月26日



- ・平成24～27年度にワーキンググループ等において水際対策について検討。
- ・実効性を確保するため、具体的な取組を通して地域の理解促進を進める必要があるとの結論を受け、母島部会を設置。
- ・母島部会において土付き苗対策と建設工事等における外来種対策指針について検討したほか、継続課題を取りまとめ。
- ・令和5年度に科学委員会から、地域連絡会議にて議論を引き継ぐことが助言事項として示される。
- ・令和6年度第2回地域連絡会議において継続課題の議論を進めることについて御説明。

平成24～27年度

「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ」等

水際対策の検討には、「対策技術の確立」、「実施体制の整備」、「制度的な裏付け」、**「社会的合意」**の議論が必要。

平成29～令和5年度

母島部会等

「人の暮らしと自然の調和」を目指し、生活や産業との関わりが深い地域における遺産価値の保全や外来種対策のあり方について、特に優先的に議論

土付き苗対策、建設工事等における外来種対策指針

令和6年度～

地域連絡会議

日時…令和6年12月20日 15:30～17:30

場所…（母島）母島支所会議室、（父島）世界遺産センター会議室、（内地）web接続

議事…（1）第一回地域連絡会議の意見と対応

（2）母島部会のこれまでの経緯

（3）母島部会の継続課題の取組状況

（4）今年度の事業について

（5）その他

令和5年度 科学委員会 助言事項（抜粋）

<母島部会>

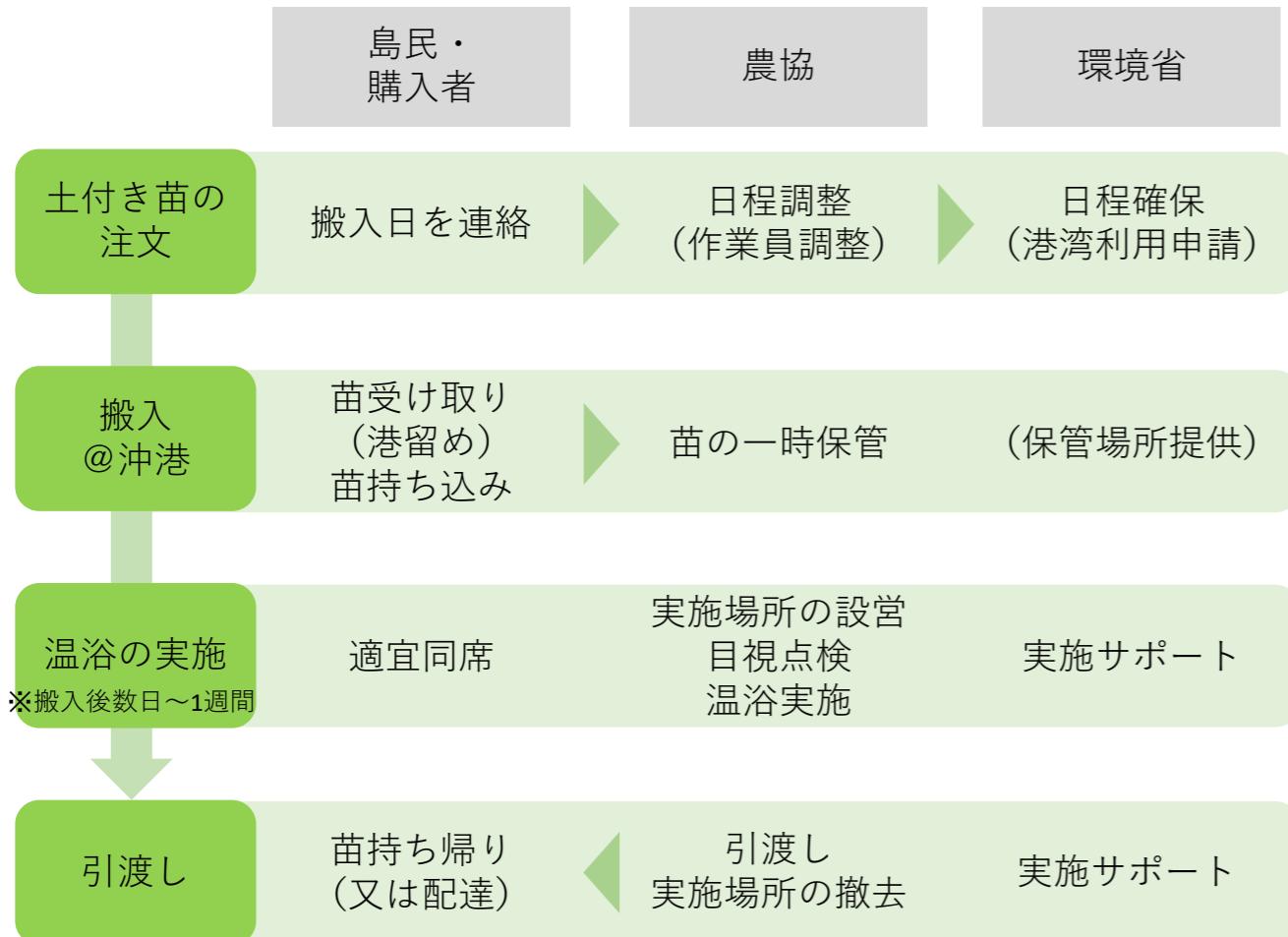
・ははの湯の普及啓発に努めるとともに、母島部会で取りまとめた継続課題について、地域連絡会議にて議論を引き継ぐこと。

母島部会において検討を行った取組 ①土付き苗の温浴（ははの湯）

3



- ・新たな外来種の侵入防止の中でも、未侵入のウズムシの侵入防止が重要であり、土付き苗が喫緊の課題であるとして、土付き苗対策に関する方策について検討。
- ・島外からの導入リスク、導入状況、外来種防除技術の整理を行い、温浴処理の体制検討、試行の実施、自主ルールの整備を行った。
- ・温浴処理の手順は以下のとおり。



苗の一時保管（環境省事務所内）



実施場所の設営（沖港・駐車場）



温浴処理の実施



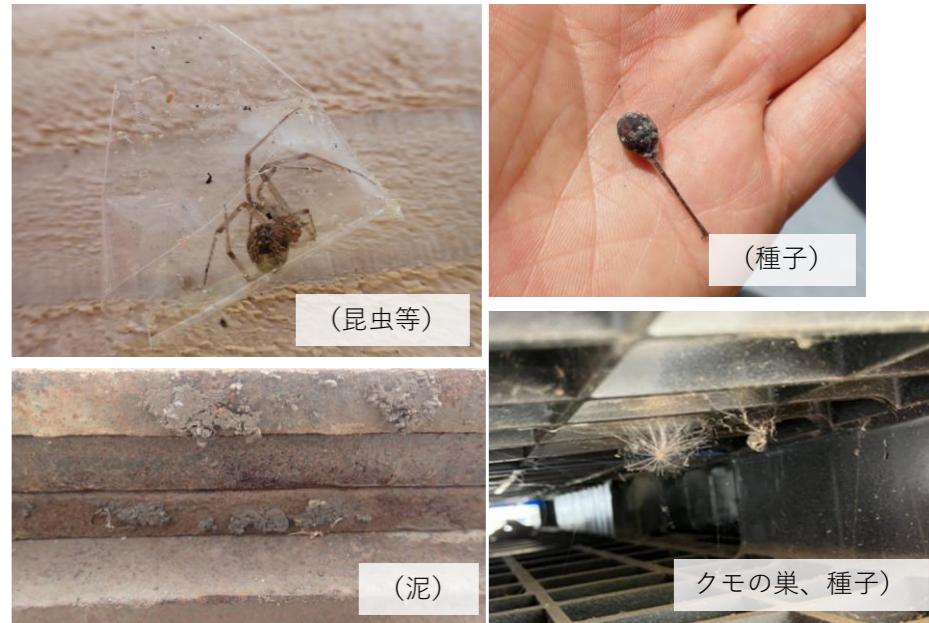
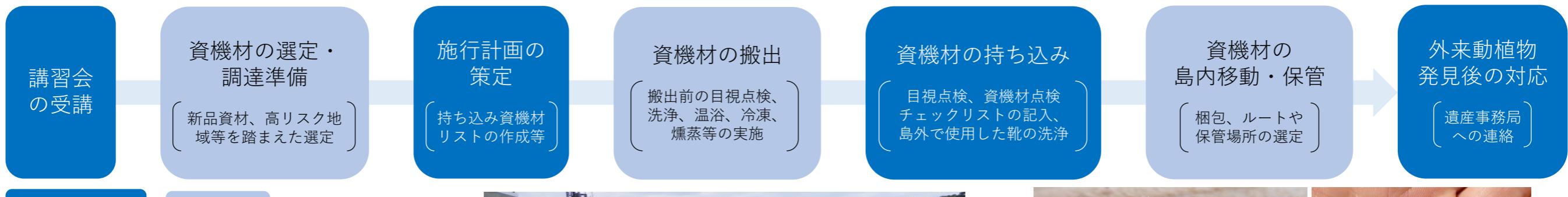
温浴処理後の鉢の冷却



温浴後に水槽内で確認された昆虫類



- 工事用資材や車両の移動による侵入防止対策の検討も進める必要があるとして、建設工事等における外来種対策指針について検討。
- リスクの確認、各管理機関の環境配慮マニュアルの内容整理、母島に特化した内容の検討、運用上の課題の整理を行い、「建設工事等における外来種対策指針-母島版-（案）」（以下「母島外来種対策指針」という。）として取りまとめ、令和6年度から試行中。
- 母島外来種対策指針にまとめられた主な対応の流れは以下のとおり。





- 母島部会において取りまとめられた継続課題は以下のとおり。

土付き苗の島外からの持ち込み対策、温浴の試行等に関する検討

継続検討課題

- 普及啓発による認知度向上
- シロアリ条例との連携
- 設備の利用しやすさの向上
 - 施設常設化
 - 持続的な実施体制の検討
- 通販等による苗搬入の検出

検討会で挙げられたが未着手の課題

- 植物体地上部に付着する外来種の対策
- 土付き野菜、木材、動植物性製造飼肥料、園芸用土等のリスクへの対応
- 島内圃場間の土付き苗や資材の移動に伴う外来種拡散リスクへの対応

工事用資材や車両の移動による 外来種の侵入防止に関する検討

継続検討課題

- 運用上の課題の整理
- 搬出地や船内、港湾で一括で行える対策の検討
- 民間工事等への展開

検討会で挙げられたが未着手の課題

- 島内拡散の防止

- ・母島部会でまとめられた取組等の令和6年度の実施状況は以下のとおり。
- ・①ははの湯は利用件数が4件に留まった。②指針の試行では運用上の課題が確認された（後述）。



①ははの湯

土付き苗に随伴する外来種の持込防止

令和6年度の利用状況

- ・利用件数：4件
(カーネーション、ドラセナ、マンゴー、カキノキ)
- ・うち外来種確認件数：2件
(ハエ、クモ、アブラムシの仲間)
- ・苗への影響：2件
1件で温浴処理1ヶ月後に枯死
1件で温浴処理1ヶ月後に樹勢が弱まる
(いずれも温浴処理との因果関係は不明)

普及啓発のための取組

- ・リーフレットを全戸配布 + 農協で配布

②母島外来種対策指針

工事資機材に随伴する外来種の持込防止

主な試行内容

- ・工事業者への事前講習の実施
- ・資機材の品目と搬入日程の把握
- ・沖港における資機材搬入時の外来種付着状況の目視点検
- ・外来種発見時の事務局への連絡

令和6年度の実施状況

- ・3件の工事で合計21件の搬入を対象に実施。
<内訳>
 - ・公共事業：1件
 - ・民間事業：2件
- ※うち1件は工事自体は公共事業であったが、試行的運用は受注者である民間事業者が自主的に行ったものであるため、民間事業として扱う。

確認された付着物

- ・資機材全440項目のうち約3割の131項目で付着物が確認された。
- ・動物、植物、土砂等の付着があった。

③小笠原関連港湾における 外来種モニタリング調査

集積場所における資機材への外来種の付着を防ぐことを念頭に、R6年度、小笠原の関連港湾における外来種の生息状況を調査。



約40分後に回収し、集まったアリ類を捕獲・同定。

調査内容

小笠原関連港湾4か所（東京港芝浦ふ頭・月島ふ頭、父島二見港、母島沖港）において、主にアリ類の概況調査を試行的に実施。

確認された外来種

- ・ツヤオオズアリ（内地、父島）
 - ・アシジロヒラフシアリ（父島）
 - ・ナンヨウテンコクオオズアリ（母島）
 - ・セアカゴケグモ（内地）
- など



※本調査でヒアリ類は確認されなかった。

令和6年度第2回地域連絡会議においていただいた御意見

7



- ・R6第2回地域連絡会議においては、主に土付き苗対策の促進に向けた取組について御意見いただいた。

「令和6年度 第2回小笠原諸島世界自然遺産地域 地域連絡会議 議事録」より抜粋

- ・母島は狭いところなので、年に数回しかやっていないとはいっても、チラシの全戸配布もこれまでに何回か実施していますし、実際に温浴処理しているのは町の中心から見えるところなので、意識している、していないは別として、そういう取組があることを知らないことはないのでは、と思っています。にもかかわらず利用状況は改善されないし、苗が母島に入っている量が変わっているようにも思えるので、言うなれば限界を感じているところかなという気は個人的にしております。（母島農協）
- ・危機感が皆さんに伝わっていないのが一番だと思います。こういう状況が続けば、土付き苗を入れられなくなるという話合いがもう始まっていますということですね。御自身の楽しんでいる趣味を規制するはどうかと思いますが、もし外来種が侵入されてしまったらどうなるということを島民がもう少し考えないといけないところに来ていると思います。危機感という訴えで「ははの湯」を今は運営していかないと、このままでは全て禁止になってしまうと思います。いきなり禁止とはできないでしょうし、そういうことを考えていると知らせるることは大事だと思います。検討しているのは事実なので、それは皆さんに協力してくださいと訴えて、この1年、様子を見る。（小笠原母島観光協会）
- ・今年、農業者が3件のうち2件利用しています。農業苗の移入はそれほど多くないのですが、過去の実績からも分かるように、農業者としては意識して使っていただいているところは御理解いただきたいという点と、今、規制という話がありましたが、シロアリ条例という規制があって、それも知っているにもかかわらず、その生息地域からの土付き苗は依然変わらずたくさん入ってきていて、規制したところで実効力があるかどうかはまた別の話だと思いました。（母島農協）
- ・「ははの湯」を利用しない方のアンケート結果を拝見していると、苗への悪影響と、面倒だからという意見が多いと思います。面倒だからということに対しては何かしら考えないといけないと思いました。もう一点の苗への悪影響ですが、処理条件は43℃・15分でやっていらっしゃる。それはアリの処理が可能な時間と温度ということで設定していると思うのですが、恐らく時間がより短ければ苗への悪影響が少ないと想うので、オプションとしてニューギニアアリガタリクウズムシ（以下、「ニューアリ」とする。）だけに特化して、もっと時間を短くしたバージョンをつくるといいと思います。全てを対象とするのではなく、これだけは絶対に防ぎたいという種にフォーカスした方法を考えてもいいと思いました。また、ニューアリはどういう条件だったら処理が可能かも少し検証してもらいたいと思います。

もう1つが、温浴に結構時間をかけなければいけない理由として、鉢の中に水を浸透させるのに時間がかかることがあると思います。思いつきですが、園芸用の資材で、土への水の浸透をよくする材があります。農業系の方は御存じだと思いますが、砂漠とか、水が希少なところで水をより有効に活用するために、水を土の上に流したときに表層をだーっと流れてしまうのではなくて浸透しやすくする材というのがあって、市販されているものらしいのですが、それを温浴装置の中に混ぜておくと浸透が速いとか、そういうこともあるのかな、時間の短縮につながるのかなと思って、ぜひニューアリ特化とか、そういうものも検討を進めていただいたらいいのではないかと思いました。（小笠原環境計画研究所）



- 母島部会における継続課題、母島島民を対象としたアンケート（R3年度実施）、地域連絡会議（R6第2回）における御意見を踏まえ、以下の左列のとおり土付き苗の温浴等に係る課題をまとめた。
- 各課題に対する対応状況と今後の対応方針は、以下の右列のとおり。
- 結果を第2回科学委員会で御報告する予定。

課題	対応状況と今後の対応方針
継続検討課題	
・普及啓発による認知度向上	・解決済み
・必要性・手順・苗への影響に関する周知	・引き続き周知を行うとともにアンケートの実施を検討する
・シロアリ条例との連携	・引き続き情報の連携を行う
・設備の利用しやすさの向上 - 施設常設化	・管理機関において情報収集を行う
持続的な実施体制の検討	
・時短に繋がる手法の検討	・解決済み
・通販等による苗搬入の検出	・管理機関において情報収集を行う ・大手通販サイトとの調整を開始 (購入者等へお知らせを行う取組等)
検討会で挙げられたが未着手の課題	
・植物体地上部に付着する外来種の対策	・植物由来の殺虫剤等により対応中
・土付き野菜、木材、動植物性製造飼肥料、園芸用土等のリスクへの対応	・御意見をお伺いしながら検討を進める
・島内圃場間の土付き苗や資材の移動に伴う外来種拡散リスクへの対応	・御意見をお伺いしながら検討を進める



- 母島部会における継続課題、試行結果（R6年度）等を踏まえ、以下の左列のとおり母島外来種対策指針に係る課題をまとめた。
- 各課題に対する対応状況と今後の対応方針は、以下の右列のとおり。
- 今年度は引き続き試行を重ね、課題の洗い出しと対応についての検討を行う。

課題	対応状況と今後の対応方針
継続検討課題	
・運用上の課題の整理	
<ul style="list-style-type: none"> -リストの記入方法の統一化 -目視点検の実施体制（専門職員の必要性、人数） -外来種等が発見された場合の対応 (洗浄等に必要な施設の整備、取り逃し) -内地で屋外に保管したり、輸送時にコンテナやパレットの上に置くため、資機材が新品か中古かで点検を省力化することは困難 ・搬出地や船内、港湾で一括で行える対策の検討 ・民間工事等への展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・R7より改良した様式を用いて試行中 ・管理機関において検討を行う ・施設整備：管理機関において検討 取り逃し：港湾における外来種モニタリング調査を引き続き実施 ・管理機関において検討を行う ・管理機関において検討を行う ・御意見をお伺いしながら検討を進める (R6は工事を行う情報が入った際に打診)
検討会で挙げられたが未着手の課題	
・島内拡散の防止	・御意見をお伺いしながら検討を進める